

社会主義のもとでの「使用価値と価値」 (三)

芦 田 文 夫

九 その他による「最適価格論」批判

もっともオーソドックスな批判として、科学アカデミー経済部会付属「価格形成の科学的基礎」問題科学会議議長でもあるジャチエンコの論文「社会主義経済における価格の基礎」(В. Дьяченко: Основы цены в социалистическом хозяйстве. "Вопросы экономики", 1968, 10.)を紹介しておこう。

ジャチエンコの論文の要旨は――

まず、この十年このかたの論争のなかで、価格の基礎を労働価値ではなく消費財貨の有用性(効用)にもとめようとする見解がだされてきているとして、フェドレンコなどの「最適価格論」を簡単に要約している。そのもとでは、

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三)(芦田)

価格は、社会的欲望充足の最大化において生産物あるいは資源の増加がもたらす寄与を表現し、生産物の増加一単位あたりの平均的支出ではなくて限界的支出でなければならぬ。それは、最終の企業(その種類の生産物の最終の増加をあたえるところの)の支出、あるいは自然資源、技術的資源、労働資源の増大の支出としてみなされる。

つづいて、このような見解の批判にうつるわけであるが、はじめに、消費属性が異なる労働生産物の社会的効用の相互較量ということについて、そのメカニズム、方法の科学的に根拠ある説明があたえられていない点をあげる。そして、あらゆる生産物にとって単一の有用性の相互較量の標識もない。すなわち、生産手段にたいしては、生産物あるいは資源がもたらす寄与によってはかられる生産の効率が

提案される。このばあい、その寄与の大きさは、生きた労働と対象化された労働の支出やより効率的な生産手段の適用によるその節約にかんしてではなく、消費財貨の造出への参加にかんして、規定される。他方で、消費財貨(消費資料)にたいしては、消費需要にたよらなければならない。消費財貨の社会的効用を規定するもっとも有効な方法は、消費者の需要形成の統計的分析であると考えられ、消費者によるひと組の財貨の他にたいする選好を量的に規定する原則を適用することだけがもとめられる。しかしながら、商品生産のもとでは、消費需要は、社会的欲望を正しく反映するものではなく、それはまた所得や価格の水準、相互関係にも依存しているのである。需要と供給はすぐれて価格の機能にかかわることであり、需要を価格の基礎にすえるということは循環論におちいることを意味する。

つぎに、価格を直接に財貨の有用性と結びつけようとする見解は、生産の商品的性格を無視し、それにたんなる形式的役割しかあたえようとしないものであると批判して、具体的有用労働と抽象的人間労働の特殊な相互関係、矛盾を述べていく。あらゆる種類の具体的労働の支出は、人間

的労働一般の支出としてあらわれ、抽象的人間労働に還元されるが故に、いろいろ異なった使用価値は相互較量されるのである。したがって、どのような労働支出も社会的に必要なものとして認められるというのではなく、社会的個人的欲望の充足を保証する労働支出だけが、すなわち社会的観点からして有用なものだけが社会的に必要なものとして認められるかぎり、労働生産物の有用性の相互較量が必要となる。だが、それは、すべての使用価値に共通の有用性のなにか神話的な単位に還元することによってではなくて、価値をつくりだす抽象的労働をつうじてのみおこなわれうる。価値は価格の内的基礎であり、この基礎を好き勝手にとりのぞいたりできない。価値法則は、異なった種類の生産物の生産に支出された社会的必要労働にかんする補償と等価にもとづく活動交換の客観的必然性をあらわしているのである。

さらにすすんで、限界支出の原則にたいする批判が展開される。周知のように、マルクスは、価値を規定する社会的必要労働時間は平均的に必要なものだけであるとした。異なった労働適用条件を利用しなければならないという必

然性と結びついた背離は、生産の平均的条件の変化をとおしてのみ価値の大きさに反映される。基準としてあらわれうるのは、平均的な社会的必要労働支出だけであり、それは実際に存在する（欲望充足のためにゆるぎられる範囲内で）個別支出からみちびきだされるものである。限界支出は、平均的社会的必要労働支出と矛盾する個別支出をあらわすものであって、この矛盾は、「最適価格論」のいうように「下手な経済運営」の結果ではなくて、経済発展の客観的な原動力なのである。社会的必要支出を限界的なものとしてとらえようとする見解は、この矛盾を無視し、いろいろ異なった個別的労働支出が平均的な社会的必要支出に還元される過程を理解できないようにさせる。それは、経済発展の原動力を、労働そのもののなかに、その二重の性格のなかにもとめるのではなく、何か別のものにもとめざるをえなくさせる。それは、労働価値論から限界効用理論への転進を意味しており、その主張者が価値の実体としての労働のかわりに生産の三要素論をもちだしてくるのも偶然ではない。マルクスの労働価値論と限界支出の理論とを結合させようとするのはノボジロフであるが、彼の命題によ

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三) (芦田)

れば、限界支出は価格の相互関係だけを規定し、価格の水準そのものは労働価値によって規制される、という(B. B. Носовиков, "Проблема измерения затрат и результатов при оптимальном планировании", 1967.)。彼はフエドレンコなどと違って価値法則の役割を強調する。だが、その価値は現実的なカテゴリーとしてではなくて観念的なカテゴリーとして登場しており、その役割は価格の度量基準の規定に帰されてしまっている。すなわち、価格が生産の諸要因の限界的支出によって規定されるかぎり、価格の総額は総価値よりも大きくなるが、この不一致が価格の度量基準の変化によって解決されるのである。ノボジロフは、商品や労働の二重性、その内的矛盾、個別的労働支出の社会的必要支出への還元の矛盾にみちたメカニズムに注意をはらおうとしないし、価値の貨幣形態としての価格を分析しようともしない。ただ、人工的につくられたモデルのかたちであらわされた支出と結果の計算があるだけである。

結局、限界支出の理論は、社会的必要支出の水準が市場的均衡によって規定されるという概念と密接に結びついており、その一変種である。社会的必要支出を形成する要因

の一つとして稀少性なるものをみとめることは、まさにこの概念にみちびいていく。市場的均衡の理論は、本質的に、社会的欲望と、限界的な消費の領域および「上位の」より効率的な消費の領域の需要とを同一視する。しかしながら、実際には、限界的な領域の消費の制限は、あたえられた生産物の大きさとその生産増大の現在の可能性のもとでの欲望充足の可能性の一時的制限を表現するだけである。生産の増大は、ある時間の経過のうちに、その他のより小さな効率の領域の欲望充足をも可能にする。そのためには、社会的必要労働支出の水準まで価格を引下げることが必要である。いいかえれば、消費の限界的な領域にねざす均衡価格は、社会的必要労働支出に等しいのではなくて、需要供給の作用のもとでのそれからの背離なのである。

最後に、結論的にいえば、限界的支出の理論のあらゆる変種は、社会的生産を理想化し、その内的矛盾を無視する。あるいは、この矛盾は、社会的生産の組織における不十分さ、その合理的組織の原則の作成における不十分さの結果であって、科学のたすけをかりて取除くことができる、ということから出発する。そして、価値と使用価値とのあい

だの矛盾は、価格を使用価値にもとづかせることによって取除こうとし、個別的労働支出と社会的必要労働支出とのあいだの矛盾は、価格を限界支出にもとづかせることによって取除こうとし、具体的労働と抽象的労働のあいだの矛盾は、労働価値論の拒否によって取除こうとし、個別的支出を社会的必要支出に還元する過程の矛盾は、価格を稀少性、市場的均衡にもとづかせることによって取除こうとするのである。

もう一つ、フェドレンコなどの「最適価格論」—すでにみた「構成的経済学 Конструктивная политическая экономия」の理論にたいして、政治経済学としての原則的な立場から、その対象と方法、商品生産の問題、民主集中制の問題などを批判的に検討したエリョーミン、ニキフォロフの興味ある論文「構成的経済学の理論について」(А. Еремин, Д. Никитин: О теории "конструктивной" политической экономии. "Вопросы экономики", 1969, 6.)をとりあげておこう。

エリョーミン、ニキフォロフの論文の要旨は——

近年、最適計画化理論における一つの傾向―「経済の最適機能化の理論」が「構成的」経済学と呼ばれ、いわゆる従来の「記述的」経済学と対置させることが若干の流向をみている。この概念の基本的命題は、フェドレンコのすでに紹介した△コムニスト▽誌一九六六年八月の論文、および一九六六年一月の科学会議での報告によってあたえられているが、さらに最近の著書『経済の最適機能化のシステム』の作成について』（Н. П. Федоренко, "О разработке системы оптимального функционирования экономики", 1968.)

にそくして、その方法論的理論の内容を考察しようとする。フェドレンコによれば、従来の経済学は、注釈の理論、非体系性の理論、非構成的接近の理論といつてよく、経済的カテゴリーを同一つ解明しえない。そして、これとは異なる原則的に新しい経済理論の創造の問題を提起するのである。その「構成的」経済学の出発的方法論的原則はどのようなものかといえ、第一は、社会の全成員の最大限の福祉の保証と全面的発達のための社会的生産の計画的組織としての社会主義にかんするマルクス・レーニンの学説にもとづいていること、第二は、経済の研究にたいする単一の

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三) (菅田)

接近、経済生活の過程の質的分析と量的分析との正しい結合、第三は、最適の原則にもとづく社会主義の経済発展の研究、第四は、最適計画の作成そのもの、およびその遂行の保証をふくむ社会主義経済の機能化の複雑なメカニズムの全面的な研究があげられる。エリョーミンらは、しかしながら、このような原則であれば、なにも「構成的」経済学に特有なものではないことをあきらかにしていく。問題は、フェドレンコがその内容を自己流に解釈しているところにある。

さて、検討がくわえられる最初の問題は、経済学の体系のなかでの「経済の最適機能化のシステム」(СФФЭ = Система оптимального функционирования экономики) の位置についてである。フェドレンコは、一方では、それが社会主義の政治経済学のもっとも重要な部分であるとしながらも、実際には、経済学の全体系にとつてかわらなければならぬいかのようにあつかい、唯一の普遍的な万能の経済学の位置にまつりあげてしまっている。そして、社会主義経済の客観的な法則と機能のメカニズムの認識の過程が、国民経済計画の作成の過程と同一視されていく。フェドレンコが、

七五 (七五)

経済法則の体系の認識ということについては語らずに、社会主義に適した合法則性の体系の定式化ということについて語っているのも偶然ではない。その再生産の経済的合法則性の体系は、結局のところ、最適計画の作成において生じる制限によって規定されるのである。

経済学の対象を、フェドレンコは、生産の組織であるとしている。いうまでもなく、生産関係と具体的な生産組織とのあいだには、一連の客観的な性格、主観的な性格の媒介環、とくに社会主義経済についての一定の表象(その認識のいどをあらわすところの)、できあがった経済的・法律的な連関と基準、経済的心理と民族的伝統、対外的諸条件、等々が介在する。生産の組織についての科学であると規定することは、主観学派の経済運営のしかたについての科学としての周知のとりあつかいきわめて近いものとなる。「構成的」経済学は、たんに、経済学の枠をひろげ、経済の体系にとってかわらうと主張するだけではなくて、それを「最適なしかた(optimale Vorgehensweise)」の理論につくりかえてしまうのである。そして、科学と実践との、生産(客観的)関係と主観的關係との同一視がおこなわれる。

このような経済学の対象についての理解は、その方法のとりあつかいにもまた影響を及ぼす。フェドレンコは、最適なしかたの理論を、方法、手段、用具の武器庫によって「補充」する、という問題をだす。そして、経済学の唯一の科学的な用具は情報と管理の理論および最適解決の数学的方法である、と述べているように、サイバネティックスと数学の方法の経済への投影がおこなわれていくのである。経済学の方法にたいする誤まった態度は、経済分析の全過程の極端な単純化と理論分析を公理のシステムにとりかえてしまう結果にみちびいている。フェドレンコは、若干のアプリオリな公理をとりだし、それにもとづいて経済の最適機能化の全システムをうちたてる。最初に、若干の質的前提がたてられる。ついで、経済過程の量的記述がなされる。経済モデルそのものは量的分析の結果をあらわす。そして、質的分析は抽象的、量的記述は具体的、として両者がまったく分断されてしまう。

以上のような出発前提の叙述から、順次展開がはかられていくわけであるが、その公理のもっとも重要なものが財貨の有用性にかんする相互較量であるかぎり、まずなによ

りも商品生産の問題がとりあげられなければならない。商品関係の原因にかんして、フェドレンコは、経済対象の孤立性という悪名たかい「記述的」経済学の見解のくりかえしから始める。だが、それを、社会主義的生産における人々の状態の特殊性、労働の性格と結びつけるのではなくて、社会主義経済システムはその複雑性のゆえに管理の完全な厳格な中央集権化のもとでは発展しえないということと結びつけている。複雑性一般という技術的カテゴリーにかえりてしまっているのである。したがって、商品生産という言葉はつかっていても、実際はまったく別のものである。そこで問題にされているのは、生産的環の「自己運動」

「自己調整」ということであり、その形態が価値メカニズムにただ外見的に類似しているだけのことである。

では、そのような「価値的メカニズム」とはどんなものか。その基底には、有用性がよこたわっていることがわかる、として、フェドレンコの図式が説明される。それは、まず出発点として計画の目的函数の一般的公式としてとられた社会主義の基本的経済法則から始まり、ついで生産の目的の「具体化」がおこなわれ、単純な変形の結果有用性

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三) (青田)

にかんする使用財貨の相互較量の必要性についての結論が下されていく。だが、それはなんの証明もなく、ただ宣言されるだけである。つまり、もっとも重要な公理が、社会主義的生産の目的の実現過程の分析からみちびきだされてきたのではなく、アプリオリにとられているのである。なお、フェドレンコは、非生産的欲望から出発してのみ計画の最適化が可能であると想定しているが、社会主義社会の欲望の総体のなかには生産的欲望もふくめられなければならないであろう。しかし、このようにすると、フェドレンコの意見によれば、経済の最適化が依拠しなければならぬ消費者評価のシステムが適用しえなくなる。

根本的な意義をもつのは、有用性を規定するメカニズムについての問題である。フェドレンコは、そのいう有用性が社会的効用であって、主観的効用理論とはちがうことを強調する。しかしながら、社会的効用とは何か、その実体は何か、ということを考察していくと、結局、それを規定する問題を需要の究明と測定のまったくありきたりのメカニズムに帰してしまっていることがわかる。それは、彼のいう反復過程からもあきらかである。すなわち、中央計画

機関は経験にしたがって有用性を評価するのであるが、それが需要に照応した価格を提起するまで価格の改善はつづけられていく。また、有用性の問題は、国民経済的最適の標識と結びついているが、何が最適の標識なのかもあきらかではない。そして、それを作成する基礎にも、まったく同様の需要メカニズムがよこたわっていることが知られる。

さいごに、フェドレンコがもっとも重要な役割をあたえるヒエラルヒーの原則の問題が検討される。彼は、それを一般的なサイバネティックスの概念としてだけしかとりあつかわないが、社会主義経済においてはそれは民主集中制という特殊な形態として存在し、その経済的内容の研究にもとづいてのみ可能となるであろう。社会、経済の諸環の経済的利益とその実現の経済的形態の分析こそが、"垂直"のおよび"水平"での"経済的連関の形態を規定することができ、社会主義のもとでのヒエラルヒーの原則の社会経済的内容をあきらかにすることができる。フェドレンコは、これとは逆に、ヒエラルヒーの一般原則から民主集中制のシステムをうちたてる。その抽象的サイバネティック的やりかたは、情報の移送と一般化におけるありきたり

のヒエラルヒーか、あるいは単一のあたえられた標識にかんする計画作成の技術かに帰着させてしまふ。

十 フェドレンコの反批判

最後に、以上の多くの批判にたいするフェドレンコの反批判「社会主義経済の最適計画の問題によせて」(Н. Федоренко, С. Шагалин: К проблеме оптимального планирования социалистической экономики. "Вопросы экономики", 1969, 6.)を紹介しておこう。

フェドレンコ、シャタリンの論文の要旨は――

はじめに、その最適理論の諸命題を要約的にくりかえしているが、これは省略しておきたい。ただ、このなかで、マルクスの『哲学の貧困』のなかの一節「諸階級の敵対関係が消滅して、もはや階級というものが存在しないところの未来社会では、消費が生産に必要な時間の最小限によって決定されるということもはやなくなって、あれこれの対象の生産に充当される時間の量は、それらのもの社会的効用の度合によって決定されることになるであら

う」の解釈をめぐって、これを相互代替財貨の社会的効用の比較だけにかんするものであるとするバシヨフ（“Изчисляя от взаимнаго взаимопомощи”, 1968, cc. 95-96）ルミヤンツェフ（“Вопросы экономики”, 1968, 10, c. 8, 9）を批判していることだけをつけくわえておこう。フェドレンコらは、この引用文のなかには、一つは、資本主義のことで消費資料の生産に必要な時間の最小限によって決定される労働者の消費水準の狭い限界を社会主義は克服すること、もう一つは、計画的に発展する社会主義経済における生産資源配分の出発点、標識は、財貨の社会的効用のカテゴリーであること、があらわされていると述べる。あわせて、エンゲルスの『反デューリング論』のなかの一節「計画は、結局において、異なった消費資料相互の有用的効果の秤量・比較、およびその生産に必要な労働量との秤量・比較によって決定されるであろう」、をつけくわえている。そして、社会的効用の量的表現の十分に好ましい方法がまだ研究されていないということにもとづいて、そのカテゴリーの客観的性格を否定するのは誤まっている、という。さて、反批判がくわえられる最初のもの、ノボジロー

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三) (芹田)

フヤアガンベギャンのような最適理論である。最適機能のいろいろ異なった理論的概念における分水嶺をなすものは、最適の標識をどのようなものとして定式化するかに結びついている。最適の標識として、最終社会的生産物あるいは非生産的消費フォンドのあたえられた大きさと構造にたいする、生きた労働支出の最小あるいは、いわゆる通分支出（經常支出および基本投資の）の最小をとる、という考えかたがかなり普及している。このばあい、社会の非生産的欲望の大きさと構造はアブリオリにあたえられているという想定、および、労働の還元係数が同様にあたえられているという想定がおかれている。しかしながら、前者については、最大限の欲望充足という社会主義経済発展の客観的目的をあらわすには不適である。使用財貨の大きさと構造についての問題はなんら解決されておらず、このことは蓄積と消費の相互関係にも反映される。つまり、社会主義経済発展の中心的なもつとも重要な問題が最適国民経済計画にたいする関係とはアブリオリに解決されていなければならないのである。後者についてみても、最適計画を作成する以前に、労働還元の問題が解決されている、としてその

一定の方法をもたざるをえない。また、通分支出をもとめるばあい投資の比較効率のノルマチーフがつかわれるが、これも最適計画作成の結果として規定されてくるものである。要するに、この考えかたは、従来の理論的見解との継承性を保証しようとするところから出発しており、社会主義経済には価値法則が客観的に固有であって価格は社会主義のもとでもまたその価値を表現しなければならないということから出発している。首尾一貫性を欠いているのはそのためである。

次に反批判の対象とされるのは、クロンロードである。すでにみたように、彼は最適の標識として、消費フォンドの価値の大きさの最大を提唱する。ただし、これは出発的の性格づけだけであって、一連のパラメータ、例えばその最適な現物の構造などによって補充されていく。つまり、一つの函数の極限値をもとめるだけではだめで、その全体の統一において社会主義再生産過程の最適な経過を性格づけるところの相互に結合する全般的・部分的函数の極限課題の複雑な総括的な相互照応をあらわすものでなければならぬ。だが、フェドレンコらは、このようなものは、

数学的表現に不適であって有効ではないと批判する。また、消費フォンドの価値の大きさにかんして、価値というのは、欲望の本性に固有なものではなくその充足のていどの測定単位としては役立たない。使用価値、しかもそれが社会的効用をもっているという一般の本性が測定単位となりうるのである。総消費フォンドの価値が一定でも、成員の欲望充足は同一ではない。さらに、価値は、いろいろ異なった種類の生産物の生産の大きさと方法がうちたてられる国民経済発展の最適計画の計算なしには考察することができない。それは、最適計画作成の結果であって出発前提におくことはできないのである。

ひきつづいて、クロンロードのいう最適計画化の手続きが検討される。まず、その第一段階について、クロンロードが経済発展の単一生産物モデルにもとづいて、総消費フォンドの最大値をどこからえようとすることがあきらかでない。また、この段階において、最適選択の可能性はない。また、この段階において、消費フォンドの価値の大きさをもとにして測定するのか、全期間にわたる総計をうるためにそれをどのようにして加算するのか、何ひとつ

答えられていない。

第二段階について。拡大再生産の基本的相互関係がえられたとして、つぎにはこの総括的指標の最適な現物的構造の規定にうつらなければならない。クロンロードは、この段階においてのみ、社会的労働生産性の最大化という指標（もう一つの目的函数）にかんしても、生産の可能性の側からする第一部門と第二部門の最適構造が規定される、というところで、社会的労働生産性の水準は、国民所得の物量的大きさと生きた労働との比によってきまってくるものであり、この指標にかんして最適構造をえようとすれば第一部門と第二部門の構造を同時に考察してのみ可能である。このばあい、もし消費フォンドの必要な増大にかんする制限がおかれないとすれば、社会的労働生産性の増大という標識は生産のための生産発展という概念の数学的実現に転化してしまう。クロンロードは人為的にこの標識をもちこんでいる。というのは、この標識に照応した社会的生産の最適構造は、消費フォンドの最大の増大によって規定されなければならないからである。消費フォンドのこの最大の増大に照応しなければならぬのは、社会的生産性の最大

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三) (若田)

の増大ではなしに(それは、消費フォンドの最大化の標識にかんする最適計画においては、一般に最大化されない)、消費フォンドの最大限の集計額をうるような増大である。だから、一つの目的函数の極限值があるだけである。第二部門、総消費フォンドの最適構造の規定においては、どのような標識がつかわれるか。クロンロードは、そのために欲望の運動法則の利用をのべるが、欲望充足の水準にたいするいろいろ異なった消費財貨の生産の増大の影響を評価する量的尺度が必要である。このためには、社会的効用のカテゴリーを利用しなければならない。

つぎに、クロンロードとはちがって、一般に単一の最適の標識のカテゴリーを否定する見解として、クルスキー (A. Курский: Теория воспроизводства и актуальные проблемы методологии планирования. "Вопросы экономики", 1968, 7) およびエフスタグニエウツァ、ニキフォロフ (Л. Евстигнеев, Л. Никифоров: О критерии оптимальности. "Вопросы экономики", 1967, 4) をとりあびる。前者については、価値的現物的諸指標のシステムによって表現される蓄積と消費の相互関係の最適を探索する必要を主

張するが、これは欲望充足の総計フォンドの最大化の結果としてのみ発見できるのだ、として批判する。また、後者は、若干の目的函数—社会的生産物の増大、生産の効率の増大、第一部門の最適構造、第二部門の最適構造などをあげる。そして、最適化の第一段階、社会的生産物の大きさの最大化をもとめるまえに、質的分析にもとづいて、技術進歩の方向を規定し、フォンド容量や資本容量の変化を知り、国民所得中の生産的蓄積の割合の変化を知らなければならぬ、とする。だが、最適計画作成のまえにどうしてこれが可能なのか。つまり、はじめに、まったくあまいな標識にもとづいて経済発展の最重要問題を非最適なしかたで解決しておいて、そのあとで、国民経済計画の最適化がはじまるのだ、と批判をしている。

さいごに、特異な主張を展開するストルーミリンにたいする反批判がおこなわれる(C. Спруминин: О критериях в оптимальном планировании. "Вопросы экономики", 1968, 4)。ストルーミリンは、最適の標識について——最小の労働支出と均等なできるかぎり完全な充足のために社会の欲望の現存量につりあって労働をもっともよく配分するとい

う条件のもとでの、労働生産性のたえない増大と大衆の消費との基本的要求である、と述べる。フェドレンコらは、一方では、社会的効用のカテゴリーを知らずして、異なった欲望の充足の均等性と尺度をどのようにして規定するか、と批判をする。他方では、ストルーミリンが社会的効用のカテゴリーを否定しているわけではないとして、彼の効用規定の公式 $p(\text{客用}) = f(\text{労働支出}) \times q(\text{この支出の世帯時})$ をひきあいだし、価値にもとづいて算出された価格は最適計画ではその効用に比例するだろうという彼の言葉をつけくわえる。そして、効用が出発的カテゴリーならばどうして価格は労働支出にもとづいてたてられなければならないのかということ、労働の還元の問題がなしにすまざれていること、ストルーミリンのしかたでは価格は(労働支出と効用の)限界の大きさにもとづいてたてられうること、 p や q の指標がどのような経済的尺度をもつか正確には説明されていないこと、などを批判している。ストルーミリンは、生きた労働と過去の労働、およびすべての財貨の社会的生産におけるその有用的効果の十分に正確な計算がなされるやいなや社会的消費における任意の労働生産物の

効用のなにか他の計器を発見することは必要がないと思われ、と書いているが、これは労働の還元方法がつくられればのことである。この問題の原則的解決は異なった使用価値の社会的効用の規定にもとくはかはないであろう。ついでには、ストルミツリンが批判をくわえた個々の論

点にわたつての反批判である。単一の標識といひながら利潤の最大という標識をも利用している問題、限界の価格にすると何倍にも高価になるといふ問題、資源と生産物の稀小性の概念の問題、「無差別曲線」の適用の問題である。

— 1 —

参考文献目録

【著書】

- Е. Миневич, “Жизненный уровень советского народа”, Госполитиздат, 1959.
“Методологические вопросы изучения уровня трудящихся”, Соцэкгиз, 1959.
Р. Назров, В. Синюгин, Ю. Ширини, “Потребление в СССР и методика его исчисления”, Госоргиздат, 1959.
С. Фигурнов, “Реальная заработная плата и подъем материального благосостояния трудящихся в СССР”, Соцэкгиз, 1960.
П. Мстиславский, “Народное потребление при социализме”, Госгизиздат, 1961.
Ю. Ширини, “Научно обоснованные нормы потребления”, Изд. “Высшая школа”, 1961.
В. Немчинов, Потребительная стоимость и потребительские оценки. “Экономико-Математические методы”, Выпуск 1, “Народнохозяйственные модели. Теоретические вопросы потребления”, Изд. АН, 1963.
В. Волгонский, Об объективной математической характеристике народного потребления. “Там же”.
Е. Слуцкий, К теории сбалансированного бюджета потребления. “Там же”.
В. Волгонский, А. Коносов, Комментарии к работе Е. Е. Слуцкого, К теории сбалансированного бюджета потребления, “Там же”.

- А. Коннос, Теоретический индекс цен потребления и его применение в планировании платежей способного спроса. "Там же".
- Л. Лейфман, Математическое исследование зависимости потребления отдельных товаров от дохода. "Там же".
- В. Немчинов, "О дальнейшем совершенствовании планирования и управления народным хозяйством", Изд. "Экономика", 1963.
- Иржи Везушка, Йосиф Витгачид, Яромир Валтер, "Изучение потребления и спроса населения", перевод с чешского, Изд. "Статистика", 1964.
- В. Корниенко, "Цены и потребительский спрос", Изд. "Экономика", 1964.
- М. Марковиц, "Статистические показатели общественного фондов потребления", Изд. "Статистика", 1964.
- "Планирование народного потребления в СССР", Изд. "Экономика", 1964.
- Н. Петраков, "Рентабельность и цена", Изд. "Экономика", 1964.
- "Статистические и математические методы в изучении проблем народного потребления", Изд. АН АССР, 1964.
- "Учет потребности свойств продукции в ценообразовании", Изд. "Наука", 1964.
- К. Вальдхух, "Общественная полезность продукции и затраты труда на ее производство, Изд. "Мысль", 1965.
- Ф. Крутинков, "Теоретические основы определения емкости рынка", Изд. "Экономика", 1965.
- В. Мочалов, "Товарное обращение в эпоху коммунистического строительства", Изд. МГУ, 1965.
- В. Швырков, "Закономерности потребления промышленных и продовольственных товаров", Изд. "Экономика", 1965.
- Л. Глазер, "Некоторые вопросы методологии планирования общественных фондов потребления", Изд. "Экономика", 1966.
- Е. Каганов, "Социалистическое воспроизводство и рынок", Изд. "Экономика", 1966.
- Я. Кронрод, "Законы политической экономии социализма", Изд. "Мысль", 1966.

- Г. Лисичкин, "План и рынок", Изд. "Экономника", 1966.
- П. Олджак, "Взаимосвязь производительности и потребления", Изд. "Экономника", 1966.
- Б. Ракицкий, "Общественные фонды потребления как экономическая категория", Изд. "Мысль", 1966.
- "Статистическое изучение спроса и потребления", Изд. "Наука", 1966.
- В. Шарыков, "Экономико-математический анализ потребительского спроса", Изд. МГУ, 1966.
- В. Басов, "Общественные фонды потребления и бюджет", Изд. "Финансы", 1967.
- А. Левин, "Экономическое регулирование внутреннего рынка", Изд. "Экономника", 1967.
- Н. Морозов, Н. Беллик, "Изучение спроса на товары", Изд. "Экономника", 1967.
- В. Райшин, "Нормативные методы планирования уровня жизни", Изд. "Экономника", 1967.
- Б. Андреев, "Экономическое значение повышения качества производства продукции", Ленинград, 1968.
- Ю. Ерemicн, "О противоречии между производительством и потребностями", Изд. МГУ, 1968.
- "Диалекссия об оптимальном планировании", Изд. "Экономника", 1968.
- Ф. Крутиков, "Кольеватура рынка при социализме", Изд. "Экономника", 1968.
- В. Сергеевский, "Проблема оптимального соотношения производства и потребления в СССР", Изд. "Мысль", 1968.
- Н. Федоренко, "О разработке системы оптимального функционирования экономики", Изд. "Наука", 1968.
- Н. Бузляков, "Методы планирования повышения уровня жизни", Изд. "Экономника", 1969.
- С. Григорьев, К. Скворцова, "Планирование фондов товаров народного потребления", Изд. "Экономника", 1969.
- С. Кирилов, "Учет потребности в стоимости продукции как фактор повышения эффективности общественного производства", Изд. "Наука", 1969.
- Г. Короякин, "Народное потребление и торговля", Изд. "Экономника", 1969.
- А. Колпос, "Трудности теории стоимости и оптимальное планирование. "Оптимальное планирование и совершенствование управления народным хозяйством", Изд. "Наука", 1969.

- А. Левин, "Социально-экономические проблемы развития спроса населения в СССР", Изд. "Мысль", 1969.
- В. Немчинов, "Общественная стоимость и плановая цена", Избранные произведения, Том 6, Изд. "Наука", 1969.
- Т. Динможа, Закон спроса и предложения в свете марксистско-ленинской экономической теории. "В. И. Ленин и вопросы политической экономии социализма", Изд. ЛГУ, 1970.
- Г. Вервеев, О законе возвышения потребностей и методологическом значении обоснования его действия В. И. Лениным. "Там же".
- Г. Зайнов, Р. Романов, "Уровень качества и стоимость продукции", Изд. "Экономика", 1970.
- Я. Кронрод, "Закон стоимости и социалистическая экономика", Изд. "Наука", 1970.
- А. Матлиги, "План, цена и эффективность производства", Изд. "Экономика", 1970.
- В. Радаев, "Потребности как экономическая категория социализма", Изд. "Мысль", 1970.
- А. Рогов, "Планирование качества промышленной продукции", Изд. "Экономика", 1971.
- У. Чернявский, "Потребности, спрос, товарооборот в социалистическом обществе", Изд. "Мысль", 1971.
- М. Дарбинян, "Коммерческая работа и изучение спроса в торговле", Изд. "Экономика", 1971.
- И. Корженевский, "Освоение закономерности развития спроса в СССР", Изд. 2-е, Изд. "Экономика", 1971.

【雑誌論文】

- А. Стагиславский, В. Штинельман : О соотношении платежеспособного спроса и производства при социализме. "Вопр. экон.", 1959, 5.
- С. Парингуа : Спрос и предложение товаров при социализме. "Вопр. экон.", 1959, 10.
- И. Писарев : Использование общественных фондов в народном потреблении. "Соц. труд", 1959, 11.
- О. Юровицкий : Общественное производство и личные потребности. "Вопр. филос.", 1959, 11.
- П. Морозов : Пути повышения качества продукции. "Парт. жнз.", 1959, 2.
- К. Скворода : Спрос и предложение товаров в социалистическом обществе. "Вопр. экон.", 1960, 11.

- В. Немчинов : Стоимость и цена при социализме. "Вопр. экон.", 1960, 12.
- Н. Мельников, П. Максимов : Ускорить развитие производства народного потребления. "Коммунист", 1960, 14.
- Ю. Козырь : О распределении фонда общественного потребления в период развернутого строительства коммунизма. "Вопр. филос.", 1960, 10.
- Л. Федорова, Е. Дельяковская : О повышении эффективности воздействия торговли на промышленное производство предметов народного потребления. "Вест. ЛГУ (Серия экон. филос. и право)", 1960, 5.
- В. Комаров : О развитии общественных фондов потребления в период развернутого строительства коммунизма. "Вопр. экон.", 1961, 1.
- С. Партигул, В. Соболев, М. Эйгельман : К вопросу о методологии определения уровня жизни трудящихся. "Вопр. экон.", 1961, 6.
- А. Аганбетш, Н. Рывашевская : Использование математических моделей и электронных вычислительных машин в планово-экономических расчетах по заработной плате, доходам и потреблению трудящихся. "План. хоз.", 1961, 4.
- М. Зак : Роль спроса и предложения товаров в социалистической экономике. "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1961, 1.
- Н. Бузляков : О развитии общественных фондов потребления. "Вопр. экон.", 1962, 4.
- Л. Минц, В. Швырков : Построение и анализ модели потребления. "Вопр. экон.", 1962, 5.
- М. Бесполов : Вопросы совершенствования связей промышленности и торговли. "Вопр. экон." 1962, 10.
- III. Аффруткин : О нормализации товарных запасов. "Вопр. экон.", 1962, 12.
- Г. Сапов : Об экономической природе общественных фондов потребления в период развернутого строительства коммунизма. "Экон. науки", 1962, 2.
- М. Жидкова, П. Кротов : Планирование общественных фондов народного потребления в СССР. "План. хоз.",

1962, 7.

- В. Гостев : Повышение качества продукции — первоочередная задача. “Коммунист”, 1962, 16.
- А. Моргунов, А. Толкачев : Качество товаров и совесть поставщиков. “Коммунист”, 1962, 5.
- В. Мочалов : Об изучении народного потребления при социализме (обзор экономической литературы). “Вест. МГУ (Серия экон.)”, 1962, 5.
- Я. Орлов : О повышении качества товаров народного потребления. “Вопр. экон. ”, 1963, 1.
- Н. Козельский : К вопросу об общественном фонде потребления. “Вопр. экон. ”, 1963, 7.
- Б. Капитонов : О повышении качества средств производства. “Вопр. экон. ”, 1963, 10.
- В. Немчинов : Основные контуры модели планового ценообразования. “Вопр. экон. ”, 1963, 12.
- В. Бельчук : О соотношении спроса и предложения на товары личного потребления в период коммунистического строительства. “Экон. науки”, 1963, 5.
- Ф. Гайчевская : Влияние общественных фондов потребления на спрос и предложение товаров народного потребления. “Экон. науки”, 1963, 5.
- Н. Котелевский : Роль цены в регулировании спроса и предложения товаров народного потребления, “Экон. науки”, 1963, 5.
- Л. Кириченко : К вопросу о методах определения качественных изменений в потреблении трудящихся. “Экон. науки”, 1963, 5.
- В. Синюгин : К вопросу об определении структуры на продовольственные и непродовольственные товары. “Экон. науки”, 1963, 5.
- Р. Локшин : Производство товаров и платежеспособный спрос. “План. хоз. ”, 1963, 1.
- И. Малы : В. И. Ленин об изучении народного потребления. “План. хоз. ”, 1963, 4.
- В. Мочалов : Предложение товаров и спрос населения. “Коммунист”, 1963, 12.

- Ш. Турецкий : Потребительская стоимость и поддержка производства. "Коммунист", 1963, 13.
- Б. Мочалов : Развитие общественных форм удовлетворения насущных потребностей трудящихся. "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1963, 2.
- Т. Алимона : Потребительские свойства товаров и совершенствование планирования. "Вест. ЛГУ (Серия экон. филос. и право)", 1968, 5.
- В. Ганштак : Стимулировать повышение качества продукции. "Финансы СССР", 1963, 10.
- Я. Орлов : Некоторые вопросы повышения качества товаров народного потребления. "Вопр. экон.", 1964, 5.
- В. Бударжин : Соотношение спроса и предложения как фактор ценнообразования. "Вопр. экон.", 1964, 5.
- В. Немчинов : Модели народнохозяйственного планирования. "Вопр. экон.", 1964, 7.
- В. Новожилов : Теория трудовой стоимости и математика. "Вопр. экон.", 1964, 12.
- В. Немчинов : Социалистическое хозяйствование и планирование производства. "Коммунист", 1964, 5.
- С. Партигул : Производство товаров народного потребления и спрос населения. "Вопр. экон.", 1965, 1.
- Б. Снехов : О критерии оптимальности народнохозяйственного плана. "Вопр. экон.", 1965, 1.
- Ю. Колдомасов : Повышение качества промышленной продукции и эффективность общественного производства. "Вопр. экон.", 1965, 2.
- В. Сисьяков : Экономические проблемы повышения качества продукции. "Вопр. экон.", 1965, 2.
- Д. Никитина : Спрос и предложение товаров народного потребления при социализме. "Вопр. экон.", 1965, 3.
- Д. Вайншенкер : Качество продукции и планирование ее стоимости. "План. хоз.", 1965, 3.
- В. Ганштак, Б. Кузьменко : Планирование качества продукции — неотложная задача. "План. хоз.", 1965, 5.
- Г. Корвин, Н. Кирюченко : Потребительский бюджет в народно-хозяйственном планировании. "План. хоз.", 1965, 9.

- Е. Нарбекова : Заказы покупателей — основа планирования производства товаров народного потребления. "План. хоз.", 1965, 5.
- У. Чернявский : О прогнозе спроса на непродовольственные товары. "План. хоз.", 1965, 10.
- В. Афанасьев, Д. Кинкадзе : Строительство коммуназма и развитие потребностей. "Коммунист" 1965, 3.
- В. Лонг : О распределении общественных фондов потребления и их влияния на семейный бюджет. "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1965, 2.
- В. Мыльников : О месте потребления в системе социалистического воспроизводства. "Вест. МГУ", 1965, 6.
- Михаил Калешкий : Проблемы оптимальной структуры потребления. "Экон. и матем. методы", 1965, 1.
- Н. Федоренко : О разработке научных методов управления народным хозяйством. "Экон. и матем. методы", 1965, 3.
- В. Новожилов : Закономерности развития системы управления социалистическим хозяйством "Экон. и матем. методы", 1965, 5.
- И. Ваганов : Качество продукции — большая экономическая проблема. Премирование за качество изделий и управление производством. "Социал. труд", 1965, 10.
- А. Анчишкин : Общественные потребности и народнохозяйственное планирование. "Полит. самобр.", 1965, 6.
- Б. Ракитский : Материальные и духовные потребности при социализме. "Полит. самобр.", 1965, 10.
- Г. Косаченко : Реализация как показатель планомерного развития социалистического хозяйства. "Вопр. экон.", 1966, 1.
- В. Воротилов : Потребительная стоимость и качество. "Вопр. экон.", 1966, 2.
- Б. Капитонов : Качество продукции и эффективность общественного производства. "Вопр. экон.", 1966, 4.
- И. Конник : План и рынок в социалистическом хозяйстве. "Вопр. экон.", 1966, 5.
- Р. Хабобы : О критериях оптимальности в схемах народнохозяйственного планирования. "Вопр. экон.", 1966, 5.
- Б. Капитонов : Экономическая реформа и качество продукции. "Вопр. экон.", 1966, 10.

- И. Плетникова : Пути ускорения роста народного потребления. "Экон. науки", 1966, 6.
- В. Сисаков, М. Багдатов : Планирование качества продукции. "План. хоз.", 1966, 2.
- Н. Федоренко : Цены и оптимальное планирование. "Коммунист", 1966, 8.
- Я. Орлов : Экономика и качество продукции. "Коммунист", 1966, 14.
- М. Окадько : Общественно необходимый труд и общественная потребность. "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1966, 3.
- Л. Вагдалов : Вопросы повышения качества промышленной продукции. "Вест. МГУ", 1966, 4.
- В. Борисов : Взаимодействие производства и потребления при социализме. "Вест. МГУ", 1966, 5.
- Г. Кутырча : Непроизводительное потребление и изменение его структуры. "Вест. МГУ", 1966, 6.
- В. Новожылов : Проблема планового ценообразования и реформа управления промышленностью. "Экон. и матем. методы", 1966, 3.
- Л. Тульчинский : О методологии печеняения общественных фондов потребления. "Вест. статис.", 1966, 6.
- Ш. Турецкий : Реализация, общественная полезность, цена и рентабельность. "Финансы СССР", 1966, 2.
- А. Е. : О проблеме экономических потребностей. (научная жизнь) "Вопр. экон.", 1967, 2.
- Л. Пекарский : Экономические проблемы повышения качества продукции. (научная жизнь) "Вопр. экон.", 1967, 3.
- В. Незаиков : Спрос и перспективное планирование. (научная жизнь) "Вопр. экон.", 1967, 10.
- В. Ларин, Ф. Суханов : Проблемы повышения качества продукции. "Экон. науки", 1967, 3.
- В. Сисиков, Б. Белов : Экономическая информация о качестве продукции. "Экон. науки", 1967, 4.
- А. Фролов : Качество продукции и эффективность общественного производства. "Экон. науки", 1967, 6.
- И. Пихова : Экономическое стимулирование качества продукции. "Экон. науки", 1967, 6.
- В. Румяшев : Материалы бюджетных обследований в изучении спроса на товары длительного пользования. "Экон. науки", 1967, 10.
- А. Левин : Основы регулирования спроса и предложения товаров народного потребления. "Экон. науки", 1967, 10.

- Ю. Кореньков : Влияние спроса и предложения на цены средств производства. "Экон. науки", 1967, 10.
- Б. Давидович, Э. Черлихина : Математико-статистические методы в прогнозировании спроса. "Экон. науки", 1967, 10.
- В. Бельзук : Спрос и предложение средств производства в социалистическом расширенном воспроизводстве. "Экон. науки", 1967, 10.
- Р. Винокур, Г. Еремеева : Общественные фонды потребления как фактор роста народного благосостояния. "Экон. науки", 1967, 10.
- Д. Стадухин, М. Хаверсон : Общественный фонд потребления и жилищный уровень населения. "Экон. науки", 1967, 12.
- Е. Монсеенко, С. Звольская : Планирование реализации продукции. "План. хоз.", 1967, 5.
- И. Маевский : Качество продукции и эффективность производства. "План. хоз.", 1967, 10.
- А. Гладышев : Общественные фонды потребления и миграция населения. "План. хоз.", 1967, 10.
- Ю. Колдомасов : Вопросы теории реализации общественного продукта. "План. хоз.", 1967, 12.
- Л. Постышев : Трудовая теория стоимости и оптимальное планирование. "Коммунист", 1967, 3.
- Л. Леонтьев : Процессы реализации в социалистической экономике. "Коммунист", 1967, 3.
- В. Киселева : Критерии оптимальности и возможности применения функций полезности на разных планировочных уровнях. "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1967, 5.
- Н. Бухаринов, А. Шишов : Проблемы оптимизации качества продукции. "Экон. и матем. методы", 1967, 1.
- Я. Кронрод : Система потребностей в условиях социализма. "Вопр. филос.", 1967, 8.
- Я. Кронрод : Экономический оптимум и некоторые вопросы методологии оптимизации народнохозяйственных планов. "Вопр. экон.", 1968, 1.
- Н. Раузов : Государственная аттестация качества продукции. "Вопр. экон.", 1968, 1.

- Р. Бурштейн : О теории планового ценообразования. "Вопр. экон.", 1968, 2.
- С. Струмиллин : О критериях в оптимальном планировании. "Вопр. экон.", 1968, 4.
- В. Брелков, А. Левин : Прогнозирование спроса населения. "Вопр. экон.", 1968, 7.
- Д. Львов, В. Сенюк, В. Сисиков : Проблемы экономики качества продукции. "Вопр. экон.", 1968, 8.
- В. Дьяченко : Оценка цены в социалистическом хозяйстве. "Вопр. экон.", 1968, 10.
- А. Марглин : Цена и оценки оптимального плана. "Вопр. экон.", 1968, 10.
- А. Румянцева : Оценка экономической эффективности затрат. "Вопр. экон.", 1968, 10.
- М. Осалко : Общественная основа социализма. "Вопр. экон.", 1968, 9.
- Р. Магпокина : Методологические аспекты исследования общественной производительности. "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1968, 3.
- Ф. Дидерихс : Платежеспособный спрос и оптовые цены предприятия. "Экон. и метем. методы", 1968, 3.
- Б. Давидович, Р. Назаров : Прогнозирование платежеспособного спроса и статистика. "Вест. статист.", 1968, 6.
- А. Ковальчук : Сущность общественных фондов личного потребления при социализме. "Вопр. филос.", 1968, 3.
- В. Бударин : Производство и потребление при социализме. "Полит. самообр.", 1968, 10.
- Н. Федоренко, С. Шагалин : К проблеме оптимального планирования социалистической экономики. "Вопр. экон.", 1969, 6.
- А. Еремин, Л. Никитин : О теории "конструктивной" политической экономики. "Вопр. экон.", 1969, 6.
- В. Гоголь : Проблемы изучения и оценки спроса населения. "Вопр. экон.", 1969, 7.
- А. Боярский : Критика одной модели оптимального планирования. "Вопр. экон.", 1969, 8.
- С. Партигул : Платежеспособный спрос и предложение товаров в социалистическом воспроизводстве. "Вопр. экон.", 1969, 12.
- С. Фельд : О взаимодействии производительности и общественных потребностей в плановом экономическом развитии.

- “Вопр. экон. ”, 1969, 12.
- К. Ефимов, А. Дербинер, Ф. Амидулкаянц : Планирование и экономическое стимулирование повышения качества промышленной продукции. “План. хоз. ”, 1969, 1.
- В. Маевский : Народнохозяйственный оптимум и планирование структуры потребления. “План. хоз. ”, 1969, 1.
- В. Брагинский : Реализация продукции и проблемы планирования. “План. хоз. ”, 1969, 2.
- А. Консон : Экономическая оценка качества. “План. хоз. ”, 1969, 3.
- Н. Митяев : Потребности и нормы. “План. хоз. ”, 1969, 4.
- Т. Сербеникова : Структура производства и его изменение под влиянием структуры фонда потребления. “Вест. МГУ (Серия экон.)”, 1969, 1.
- Г. Богомазов, О. Ожерельев : К вопросу о сущности качественной общественной потребительской стоимости и общественной полезности. “Вест. ЛГУ (Серия экон. филос. и право)”, 1969, 17.
- Ю. Архангельский, А. Коноплицкий : Оптимальные и межотраслевой баланс. “Экон. и матем. методы”, 1969, 6.
- Н. Федоренко : Хозяйственная реформа проблемы оптимального управления социалистической экономикой. “Вопр. экон. ”, 1970, 3.
- В. Новожилов : О проблеме развития теории оптимального планирования на современном этапе. “Вопр. экон. ”, 1970, 10.
- В. Сивяков : Методология экономико-статистического исследования качества продукции. “Экон. науки”, 1970, 6.
- К. Вайльгух : О предельных оценках воспроизводимых ресурсов в динамическом оптимальном плане. “Экон. науки”. 1970, 7.
- Б. Смахов : Общественные потребности и оптимальное планирование народного хозяйства. “Экон. науки”, 1970, 7.
- С. Косляченко, В. Рутгайзер : Прогнозирование спроса населения на платные услуги. “Экон. науки”, 1970, 10.
- Я. Пеккер : Общественная потребность при социализме. “Экон. науки”, 1970, 12.

- В. Ширягин, Л. Кольяжова : Стимулирование повышения качества изделий ценами. "План. хоз.", 1970, 6.
- А. Гаджиев, А. Матчи : О взаимосвязи производства и потребления в планировании. "План. хоз.", 1970, 6.
- Т. Ашмова : О законе спроса и предложения. (К анализу категории "спрос" и "предложение"). "Вест. ЛГУ (Серия экон. филос. и право)", 1970, 11.
- В. Колосников, А. Рогов, П. Томский, В. Шахурин : Проблемы повышения качества продукции. "Вопр. экон.", 1971, 1.
- Д. Львов : Определение экономической эффективности повышения качества продукции. "Вопр. экон.", 1971, 2.
- В. Брэдов, А. Левин : О совершенствовании методов прогнозирования спроса населения. "Вопр. экон.", 1971, 4.
- У. Чернявский : О потребности социального общества в предметах потребления. "Вопр. экон.", 1971, 9.
- А. Каченко : Экономические стимулы повышения качества продукции. "Экон. науки", 1971, 1.
- А. Верник : Повышение качества продукции : опыт и проблемы. "Коммунист", 1971, 16.
- Г. Лагалева : Потребление и воспроизводство, "Вест. МГУ (Серия экон.)", 1971, 2.
- К. Тайчиога : О прогнозировании общественных фондов потребления. "Изв. АН СССР, сер. экон.", 1971, 3.
- А. Каченко, И. Дакман, Ю. Овсянко : О соотношении народнохозяйственного эффекта и общественно необходимых затрат. "Изв. АН СССР, сер. экон.", 1971, 3.